

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

シタミズゴケ

ミズゴケ目 ミズゴケ科

Sphagnum subobesum Warnst.

環境省 なし

- ❖ 形 態 オオミズゴケより小形で、乾くとやや金属光沢がある。茎葉は枝葉より小さいが1／2以上で倒卵形～舌形である。
- ❖ 分布の概要 北米西部に分布する。国内では北海道、本州に分布する。県内では滝沢市、盛岡市、大槌町、奥州市に記録がある。
- ❖ 生育状況 低地～亜高山帯の沼沢地や湿地に生育する。
- ❖ 脅 威 湿地開発、自然遷移、園芸材料としての採取など。
- ❖ 文 献 1. 沼宮内耕作 (2000)、2. 岩渕弘・沼宮内耕作 (2008)、3. 鈴木兵二 (1978)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ミヤマクサスギゴケ

クサスギゴケ目 クサスギゴケ科

Timmia megapolitana Hedw.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形 態 茎は高さ6～7cm、葉は披針形で長さ約10mmと大きい。
- ❖ 分布の概要 北半球の北方域に分布する。国内では北海道、本州中部以北に分布する。岩手県内では住田町で採集された標本記録がある。
- ❖ 生育状況 石灰岩地の湿った岩や土の上に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、石灰岩採掘など。
- ❖ 文 献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩渕弘 (2006)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ハナシキヌシッポゴケ

ギボウシゴケ目 キヌシッポゴケ科

Seligeria donniana (Sm.) Müll.Hal.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形 態 キヌシッポゴケ属の植物体は茎の長さが1～2mmと微小である。本種はコキシッポゴケに似るが、葉の基部の縁に細鋸歯があり、蒴に蒴歯がない。
- ❖ 分布の概要 北半球に分布する。国内では本州および四国に分布する。岩手県では住田町に記録がある。
- ❖ 生育状況 日陰の湿った石灰岩の岩壁に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、道路工事など。
- ❖ 文 献 4. Suzuki, Iwatsuki, Kiguchi (2006)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

コキノシッポゴケ

ギボウシゴケ目 キヌシッポゴケ科

Seligeria pusilla (Hedw.) Bruch et Schimp.

環境省 絶滅危惧Ⅰ類

- ❖ 形 態 植物体は直立し、茎の長さが1～2 mmと微小である。本種は葉の先端部が尖り、中肋が葉の先端からわずかに突出すること、蒴歯の表面が平滑なことなどで区別される。
- ❖ 分布の概要 北半球に分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。岩手県では岩泉町に記録がある。
- ❖ 生育状況 日陰の湿った石灰岩上に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、道路工事など。
- ❖ 文 献 4. Suzuki, Iwatsuki, Kiguchi (2006)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

ヒカリゴケ

シッポゴケ目 ヒカリゴケ科

Schistostega pennata (Hedw.) F.Weber et D.Mohr

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形 態 茎は7～8 mm、白緑色で披針形の葉が左右2列に並ぶ。原糸体にレンズ上の細胞が平面的に並ぶ部分があり、細胞の奥で入射光を反射することにより光って見える。
- ❖ 分布の概要 北半球の北方域に分布する。国内では北海道と本州に分布する。岩手県では薬師岳の生育地が有名だが、早池峰山にも記録がある。
- ❖ 生育状況 山地（主に亜高山帯針葉樹林）の洞穴、岩の隙間、倒木の根元などの土上に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、観光開発など。
- ❖ 文 献 5. 高木典雄 (1968)、6. 細井啓子 (2009)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

カサゴケモドキ

ホンマゴケ目 ハリガネゴケ科

Rhodobryum ontariense (Kindb.) Paris

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形 態 茎頂に葉が集まってつき、傘状になる。カサゴケに似るが、葉の数が20～50枚とより多く、葉縁は強く反曲し、上部の歯は単生する。
- ❖ 分布の概要 アジア・ヨーロッパに広く分布する。日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。岩手県内では盛岡市と滝沢市で確認されている。
- ❖ 生育状況 落葉広葉樹林の腐植土上、岩上などに生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、踏みつけ、登山道整備など。

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

コシノヤバネゴケ

ハイゴケ目 カワゴケ科

Dichelyma japonicum Cardot

環境省 絶滅危惧Ⅰ類

- ❖ 形態 茎の長さは通常 5-10 cm程度で長いもので 15cm に達する。クロカワゴケに似るが、葉は披針形で、葉縁が反曲し、葉頂に達する中肋がある点異なる。
- ❖ 分布の概要 日本固有種。北海道・本州中部以北に分布する。岩手県内では八幡平、焼石岳などから確認されている。
- ❖ 生育状況 川岸や湖沼の周りの樹木の根元、樹幹、倒木上に生える。クロカワゴケやカワゴケは水中に生育するが、本種は水際に生育する。
- ❖ 脅威 河川・湖沼周辺の改変、乾燥化、森林伐採など。

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

カワゴケ

ハイゴケ目 カワゴケ科

Fontinalis hypnoides Hartm.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 茎は長く、30cm 程度になることもある。クロカワゴケに似るが、葉はややまばらにつき、先端は鋭く尖り、葉縁はほぼ全縁で、葉が縦に折りたたまれることはない。
- ❖ 分布の概要 国内では北海道・本州に分布する。岩手県内では盛岡市、北上市、遠野市などに記録がある。
- ❖ 生育状況 流水や池の底の岩上や倒木上などに生育する。山間部の湧水が入る水路で見つかることが多い。
- ❖ 脅威 河川改修、森林伐採、水質汚濁など。
- ❖ 特記事項 県内に既知の生育地は少ないが、クロカワゴケの生育地とされていた場所で再調査をしたところカワゴケであった事例もあり、精査すれば生育地が増える可能性がある。
- ❖ 文献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩渕弘 (2006)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②⑥

レイシゴケ

ハイゴケ目 サナダゴケ科

Myurella sibirica (Müll.Hal.) Reimers

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 植物体は小形で糸状、茎は匍匐する。
- ❖ 分布の概要 北半球に広く分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。岩手県では岩泉町、遠野市、住田町に記録がある。
- ❖ 生育状況 石灰岩地の岩の隙間の土上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、道路工事、石灰岩採掘、観光開発など。
- ❖ 文献 8. 樋口利雄 (1989) 、9. 田中敦司 (2012)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤⑥

ヒメトロイブゴケ

トロイブゴケ目 トロイブゴケ科

Apotreubia nana (S.Hatt. et Inoue) S.Hatt. et Mizut.

環境省 絶滅危惧Ⅰ類

- ❖ 形態 匍匐する葉状苔類で長さ1～3 cm、幅4～8 mm。縁は深く切れ込み、茎葉状に見える。葉状体背面に舌状の背片が2列に並ぶ。
- ❖ 分布の概要 本州の高地に分布し早池峰山(岩手県)や秩父山地(埼玉県、長野県)、八ヶ岳(長野県)、南アルプス(長野県、山梨県)から記録された。国外では中国に分布する。
- ❖ 生育状況 高山のハイマツ林や亜高山帯針葉樹林の林床または岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、登山道の整備など。
- ❖ 文献 18. Kitagawa (1959)、19. 環境庁(2000)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤⑥

イワゼニゴケ

ゼニゴケ目 ジンガサゴケ科

Mannia triandra (Scop.) Grolle

環境省 絶滅危惧Ⅰ類

- ❖ 形態 葉状体は長さ5～13mm、幅3～4 mm。縁が紫色を帯びる。雌器托は傘状、頭部が球状。
- ❖ 分布の概要 中国、ヨーロッパ、北米などに分布する。国内では北海道、岩手県、埼玉県で確認されている。
- ❖ 生育状況 落葉広葉樹林の土の上や岩壁上。
- ❖ 脅威 森林伐採や乾燥化。
- ❖ 特記事項 岩手県内の記録は五葉山で、近年生育が確認されていない。
- ❖ 文献 20. Inoue, Shimizu (1968)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ②

イチョウウキゴケ

ゼニゴケ目 ウキゴケ科

Ricciocarpos natans (L.) Corda

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 イチョウの葉のような扇形をした葉状苔類。水面に浮遊する。
- ❖ 分布の概要 汎世界的に分布する。岩手県では盛岡市、北上市など各地に分布する。
- ❖ 生育状況 休耕田や除草剤を使用しない水田、ため池等の水面に浮遊して生育する。
- ❖ 脅威 除草剤の使用、圃場整備など。
- ❖ 文献 19. 環境庁(2000)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤⑥

ミヤマミズゼニゴケ

ウロコゼニゴケ目 ミヤマミズゼニゴケ科

Calycularia laxa Lindb. et Arnell

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 葉状体は匍匐し、長さ 2～4 cm、幅 5～7 mm、二叉状に分岐する。中肋があり、縁は波打つ。
- ❖ 分布の概要 北海道、本州、九州に分布する。岩手県では早池峰山に記録がある。国外では東ヨーロッパと環北太平洋岸に分布する。
- ❖ 生育状況 落葉広葉樹林の湿った岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、乾燥化。
- ❖ 文献 13. Hattori (1957)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑤⑥

ハットリヤスデゴケ

クラマゴケモドキ目 ヒメウルシゴケ科

Neohattoria herzogii (S.Hatt.) Kamim.

環境省 絶滅危惧Ⅰ類

- ❖ 形態 ヤスデゴケ科とヒメウルシゴケ科の中間的な特徴をもつ茎葉状苔類。ヤスデゴケ属に似るが、背片の縁に著しい鋸歯がある。
- ❖ 分布の概要 早池峰山で採集された標本に基づき新種として記載された。北海道と本州（岩手県、埼玉県、長野県）に分布する。国外では極東ロシアに分布する。
- ❖ 生育状況 亜高山帯の針葉樹林または針広混交林において、針葉樹のオオシラビソ樹幹上などに着生する。産地においては生育範囲が非常に狭い。
- ❖ 脅威 森林伐採や登山道の整備にともなう乾燥化など。
- ❖ 特記事項 タイプ標本は早池峰山の標高 1,200m 付近のヒノキアスナロの樹幹に着生していた。
- ❖ 文献 11. 環境省 (2015)、13. Hattori (1957)、14. 岩月善之助 (2001)、15. 服部植物研究所、16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)、17. 湯澤陽一・横山正弘・山田耕作 (2011)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定要件 ⑥

イイシバヤバネゴケ

ツボミゴケ目 ヤバネゴケ科

Odontoschisma jishibae (Steph.) L.Söderstr. et Váňa

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形態 茎葉状の苔類で長さ 1～3 cm。葉は 2 裂し、複葉は小さく糸状～披針形で稀に 2 裂する。
- ❖ 分布の概要 本州（岩手県以南）、九州、屋久島に分布する。国外ではアジアと中米に不連続に分布する。岩手県では八幡平で記録がある。
- ❖ 生育状況 山地のスギや、亜高山帯針葉樹林の針葉樹の樹幹や倒木上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採や乾燥化。
- ❖ 文献 10. 片桐知之・古木達郎 (2015)、11. 環境省 (2015)、12. 湯澤陽一 (2002)

(鈴木 まほろ)

オオミズゴケ

ミズゴケ目 ミズゴケ科

Sphagnum palustre L.

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形 態 代表的なミズゴケで、茎の高さは10cm以上に達する。
- ❖ 分布の概要 世界に広く分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内各地の湿地に見られる。
- ❖ 生育状況 低地～山地の湿地や池の周りに生育する。
- ❖ 脅 威 園芸材料とするために採取されるほか、湿原開発、自然遷移などが脅威となる。
- ❖ 文 献 1. 沼宮内耕作 (2000)、2. 岩渕弘・沼宮内耕作 (2008)、3. 鈴木兵二 (1978)

(鈴木 まほろ)

クロカワゴケ

ハイゴケ目 カワゴケ科

Fontinalis antipyretica Hedw.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形 態 植物体は褐色～黒緑色を帯びる。茎は長さ30cmに達する。カワゴケに似るが、葉が縦に折りたたまれる点異なる。葉先は鈍頭で目立たない鋸歯がある。
- ❖ 分布の概要 世界に広く分布する。北海道、本州に分布する。県内では各地の清流に生育する。
- ❖ 生育状況 山地の流水中や池の底の岩上や倒木などに生える。
- ❖ 脅 威 河川改修、水質汚濁など。
- ❖ 特記事項 カワゴケと混同されている場合がある。
- ❖ 文 献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩渕弘 (2006)

(鈴木 まほろ)

スギバシノブゴケ

ハイゴケ目 ヌマシノブゴケ科

Bryochenea vestitissima (Besch.) Touw

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形 態 茎は3～6cm、規則的に羽状に2～3回分岐する。毛葉は茎とすべての枝に多数生える。シノブゴケ属に似るが、小さく繊細で葉がまばらにつき、二次枝にも毛葉が生える。
- ❖ 分布の概要 中国、台湾、シベリア、ヒマラヤ、極東ロシアに分布する。国内では本州、四国、九州に分布する。県内では住田町で記録がある。
- ❖ 生育状況 落葉樹林帯の林床の腐植土や石灰岩の崖に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、石灰岩採掘など。
- ❖ 文 献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩渕弘 (2006)、21. 福島県 (2002)

(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ②

ツボゼニゴケ

ゼニゴケ目 ジンガサゴケ科

Plagiochasma pterospermum C.Massal.

環境省 なし

- ❖ 形 態 葉状体の縁と腹面は紫紅色。雌器托は葉状体の途中につき、柄は長さ 0.5～1 cmと極端に短い。
- ❖ 分布の概要 東アジア～ヒマラヤ、国内では北海道～九州に分布する。岩泉町の石灰岩地帯に複数の生育地がある。
- ❖ 生育状況 落葉樹林帯以下の、主に石灰岩地の崖に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、林道工事など。
- ❖ 文 献 22. 湯澤陽一 (2017)、23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)、24. 湯澤陽一・横山正弘 (2005)
(鈴木 まほろ)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定要件 ①

ウキウキゴケ

ゼニゴケ目 ウキゴケ科

Riccia fluitans L.

環境省 なし

- ❖ 形 態 葉状の苔類で長さ 1～5 cm、幅 1 mm 以下、規則的に二叉状に分岐する。
- ❖ 分布の概要 汎世界的、日本全土に分布する。県内の低地～山地の各地に分布する。
- ❖ 生育状況 低地～山間部の池、水路、休耕田、湿地などに生育し、水中に浮遊するか、湿った土の上に生える。
- ❖ 脅 威 農薬散布、圃場整備、水質汚濁など。
- ❖ 特記事項 生育地の減少が著しい。
- ❖ 文 献 2. 岩渕弘・沼宮内耕作 (2008)
(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

クマノチョウジゴケ

キセルゴケ目 キセルゴケ科

Buxbaumia minakatae S.Okamura

環境省 なし

- ❖ 形 態 配偶体の葉や茎が退化し、孢子体の蒴だけが目立つ。蒴は長さ 3～5 mm、円筒形で側部に稜がない。蒴柄は長さ 2～3 mm。
- ❖ 分布の概要 中国、朝鮮、シベリア、北米東部に分布する。北海道、本州、四国に分布するが、全国的に稀な種である。県内では住田町で確認されている。
- ❖ 生育状況 山地の森林内の腐木上に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、森林管理放棄など。
(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ナメリオウムゴケ

センボンゴケ目 センボンゴケ科

Hymenostylium aurantiacum Mitt.

環境省 なし

- ❖ 形 態 茎は高さ 1 ～ 2 cm。葉は線状披針形～披針形、葉縁は全体が平坦、葉先は鋭頭、中肋は葉先に達するか突出する。
- ❖ 分布の概要 中国、ヒマラヤ、フィリピンに分布する。国内では本州～沖縄に分布する。県内では一関市に記録がある。
- ❖ 生育状況 湿り気のある石灰岩の岩上、岩壁に生育する。
- ❖ 脅 威 石灰岩の採掘など。
- ❖ 文 献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩渕弘 (2006)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

アナシッポゴケモドキ

センボンゴケ目 センボンゴケ科

Chionoloma angustatum (Mitt.) M.Menzel

環境省 なし

- ❖ 形 態 茎は高さ 5 cm に達し、直立～やや平伏する。葉は線状披針形で基部は幅広く茎を抱え、乾くと強く巻縮する。
- ❖ 分布の概要 中国、東南アジアに分布し、国内では本州、四国、九州に分布する。岩泉町で記録がある。
- ❖ 生育状況 湿り気のある岩上に生育する。時に石灰岩上に生育する。
- ❖ 脅 威 林道工事、石灰岩採掘など。
- ❖ 文 献 25. Saito K (1975)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ホンモンジゴケ

センボンゴケ目 センボンゴケ科

Scopelophila cataractae (Mitt.) Broth.

環境省 なし

- ❖ 形 態 長さ 5 ～ 15mm、茎はほとんど分枝しない。葉は舌状～倒披針形、広い鋭頭。
- ❖ 分布の概要 東南アジア、インド、ヒマラヤ、北米・南米に分布する。国内では本州～九州に分布する。県内では平泉町に記録がある。
- ❖ 生育状況 銅葺き屋根の下など銅イオンのある地上や岩上に生育し、山地よりも市街地に多いというが、福島県では石灰岩地帯の岩上で確認されている。
- ❖ 脅 威 建築物の改修工事、石灰岩採掘など
- ❖ 文 献 21. 福島県 (2002) 、26. 佐竹研一 (1990)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

アツバチ ヨウチンゴケ

ホンマゴケ目 ヨウチンゴケ科

Plagiomnium succulentum (Mitt.) T.J.Kop.

環境省 なし

- ❖ 形態 茎は長さ 5 cm 前後、直立茎のほかに匍匐茎をもつ。葉は楕円形で長さ 10mm、葉縁の全周に歯がある。
- ❖ 分布の概要 東アジア、東南アジア、ヒマラヤに分布する。国内では本州～沖縄に分布する。早池峰山の門馬登山口付近で採集された標本記録がある。
- ❖ 生育状況 渓流沿いの濡れた岩上などに群落をつくる。
- ❖ 脅威 登山道整備、河川改修など。
- ❖ 文献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩渕弘 (2006)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

コハイヒモゴケ

ハイゴケ目 ハイヒモゴケ科

Meteorium buchananii (Broth.) Broth. subsp. *helminthocladulum* (Card.) Nog.

環境省 なし

- ❖ 形態 茎や枝はひも状で長く垂れ下がる。葉はやや光沢があり、先端がまっすぐで短く、覆瓦状につく。
- ❖ 分布の概要 中国、朝鮮半島に分布する。国内では本州～沖縄に分布する。県内では岩泉町、早池峰山、一関市から標本が採集されている。
- ❖ 生育状況 岩上や石垣、樹上に生える。
- ❖ 脅威 里山開発、土地造成など。

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②

ヤリノホゴケ

ハイゴケ目 キヌゴケ科

Calliergonella cuspidata (Hedw.) Loeske

環境省 なし

- ❖ 形態 茎は長さ 10cm に達し、やや羽状に分枝し、枝は長さ 5～10mm。葉はあまり展開せず、枝先は葉が覆瓦状についてまっすぐに尖る。
- ❖ 分布の概要 世界に広く分布する。北海道～九州に分布する。県内では滝沢市、宮古市に記録がある。
- ❖ 生育状況 水田の周りなど、湿地や草地の土上に生える。
- ❖ 脅威 宅地開発、圃場整備など。
- ❖ 文献 2. 岩渕弘・沼宮内耕作 (2008)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

チチブハイゴケ

ハイゴケ目 キヌゴケ科

Pseudohygrohypnum calcicola (Ando) Jan Kučera et Ignatov

環境省 なし

- ❖ 形態 茎は這い、茎葉は長さ 2～3.5mm。雌雄同株で雌苞葉が非常に長く 8 mm に達し、縦じわがある。蒴柄は長さ 1.5～3 cm。
- ❖ 分布の概要 本州～九州に分布する。県内では岩泉町に記録がある。
- ❖ 生育状況 山地の石灰岩上に生える。
- ❖ 脅威 石灰岩採掘、林道工事など。
- ❖ 文献 8. 樋口利雄 (1989)、9. 田中敦司 (2012)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

カハルクラマゴケモドキ

クラマゴケモドキ目 クラマゴケモドキ科

Porella stephaniana (C.Massal.) S.Hatt.

環境省 なし

- ❖ 形態 植物体は灰緑色、茎は長さ 3～5 cm。茎は不規則に分岐する。葉はゆがんだ卵形の背片と舌形の腹片とからなる。
- ❖ 分布の概要 中国に分布する。国内では本州～九州に分布する。県内では岩泉町、一関市、住田町に標本記録がある。
- ❖ 生育状況 湿った石灰岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、林道工事など。
- ❖ 特記事項 岩手県が北限と言われている。
- ❖ 文献 16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)、17. 湯澤陽一・横山正弘・山田耕作 (2011)、21. 福島県 (2002)、23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)、24. 湯澤陽一・横山正弘 (2005)、27. 水谷正美 (1974)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヤマナカヨウジョウゴケ

クラマゴケモドキ目 クサリゴケ科

Cololejeunea ornata A.Evans

環境省 なし

- ❖ 形態 茎の長さ 3～5 mm 前後の小形の葉状苔類。
- ❖ 分布の概要 本州～沖縄に分布する。岩泉町、住田町、一関市に記録がある。
- ❖ 生育状況 林内の岩上に生育するシダや蘚類の葉上に着生する。東北地方では石灰岩地帯に多い。
- ❖ 脅威 森林伐採、乾燥化など。
- ❖ 文献 16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)、22. 湯澤陽一 (2017)、23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)、24. 湯澤陽一・横山正弘 (2005)

(鈴木 まほろ)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ツジベゴヘイゴケ

クラマゴケモドキ目 クサリゴケ科

Tuzibeanthus chinensis (Steph.) Mizut.

環境省 なし

- ❖ 形態 茎は3～6 cm、不規則に羽状分枝する。
- ❖ 分布の概要 東アジア、タイ、ヒマラヤに分布する。国内では本州～九州に分布する。県内では一関市、大船渡市に記録がある。
- ❖ 生育状況 山地の石灰岩の岩壁につく。
- ❖ 脅威 石灰岩採掘など。
- ❖ 文献 16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)、22. 湯澤陽一 (2017)、23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)
(鈴木 まほろ)

留意

選定要件 ②

フナバハグルマゴケ

スギゴケ目 スギゴケ科

Oligotrichum hercynicum (Hedw.) DC.

環境省 なし

- ❖ 形態 茎の高さは1～2.5 cm、葉の長さは2.5～5 mm。葉の上部が舟状にへこむ。葉の背面の薄板がほとんどなく、腹面の薄板は強く波状に屈曲する。
- ❖ 分布の概要 グリーンランド、ヨーロッパ、シベリア、カムチャッカ、北米に分布する。国内では北海道、本州に分布する。県内では秋田駒ヶ岳、乳頭山、栗駒山で採集された標本がある。
- ❖ 生育状況 亜高山帯以上の湿った岩上や地上に生育する。
- ❖ 脅威 踏みつけ、登山道整備など。
- ❖ 文献 28. Noguchi (1987)
(鈴木 まほろ)

留意

選定要件 ②

ホソハウオウゴケ

シッポゴケ目 ホウオウゴケ科

Fissidens grandifrons Brid.

環境省 なし

- ❖ 形態 大型で茎は葉を含め長さ3～8 cm、25～65 対の葉をつけ、しばしば枝分かれする。葉は狭披針形、長さ3～5 mm で硬い。葉先は細くなるが鈍頭～円頭。
- ❖ 分布の概要 北半球に分布する。国内では本州～九州に分布する。県内では遠野市、雫石町で採集された標本があり、岩泉町にも記録がある。
- ❖ 生育状況 おもに石灰岩地の水中または湿った岩上に生える。
- ❖ 脅威 河川改修、林道工事など。
- ❖ 文献 8. 樋口利雄 (1989)
(鈴木 まほろ)

オオヒモゴケ

ヒモゴケ目 ヒモゴケ科

Aulacomnium palustre (Hedw.) Schwägr.

環境省 なし

- ❖ 形 態 茎は直立し、長さ2～10cm。葉は茎に対し扁平でなく放射状につき、乾くと茎に接する。披針形で鋭頭。茎の先端が軸状に伸び、無性芽をつけることがある。
- ❖ 分布の概要 世界に広く分布する。北海道、本州（中部地方以北）に分布する。県内では八幡平御在所沼で採集された標本がある。
- ❖ 生育状況 湿地など湿った地上や岩上に生える。
- ❖ 脅 威 湿地開発、観光開発など。
- ❖ 文 献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩渕弘（2006）

(鈴木 まほろ)

ヒムロゴケ

ハイゴケ目 ヒムロゴケ科

Pterobryon arbuscula Mitt.

環境省 なし

- ❖ 形 態 大型で、一次茎は細くて這い、葉は小さく鱗片状。二次茎は規則正しく2回羽状分枝し、立ち上がるか下垂する。枝は乾くと巻き上がる。
- ❖ 分布の概要 中国、朝鮮に分布する。国内では北海道～沖縄に分布する。早池峰山で採集記録がある。
- ❖ 生育状況 山地の樹木や岩壁に群落をつくる。
- ❖ 脅 威 森林伐採、登山道整備、乾燥化など。
- ❖ 文 献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩渕弘（2006）

(鈴木 まほろ)

オオサナダゴケ

ハイゴケ目 サナダゴケ科

Plagiothecium neckeroideum Schimp.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形 態 茎は這う。葉は長さ3～4mmで非相称、強く扁平につき、上半部に著しい横しわがあって強く波打つ。葉先は狭い鋭頭で仮根や無性芽をつける。
- ❖ 分布の概要 中国、台湾、東南アジア、極東ロシア、まれにヨーロッパに分布する。国内では北海道、本州、四国に分布し、高地に多い。岩手県内では早池峰山に記録があり、また盛岡市の山地で採集された標本がある。
- ❖ 生育状況 主に高地の岩上や地上に生育する。
- ❖ 脅 威 森林伐採、登山道整備、踏みつけ、ニホンジカによる食害など。
- ❖ 文 献 29. Iwatsuki (1970)

(鈴木 まほろ)

エゾヤハズゴケ

クモノスゴケ目 チヂレヤハズゴケ科

Hattorianthus erimonus (Steph.) R.M.Schust. et Inoue

環境省 なし

- ❖ 形態 葉状体は長さ 5 cm、幅 5 mm、おもに腹面から分枝し、中肋部内に 2 本の中心束がある。葉縁に長毛をもたない。
- ❖ 分布の概要 極東ロシア、中国、韓国に分布する。国内では北海道～九州に分布する。県内では岩泉町と釜石市から採集された標本がある。
- ❖ 生育状況 おもにブナ帯の溪谷の岩上、腐植土上などに生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、林道工事、河川工事など。
- ❖ 文献 23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)、24. 湯澤陽一・横山正弘 (2005)

(鈴木 まほろ)

ホソクラマゴケモドキ

クラマゴケモドキ目 クラマゴケモドキ科

Porella gracillima Mitt.

環境省 なし

- ❖ 形態 植物体は淡緑色で長さ 2 cm、不規則に 1～2 回羽状に分岐する。葉は卵形で全縁の背片と舌形の腹片とからなり、背片の先端が内に曲がっている。
- ❖ 分布の概要 樺太、朝鮮に分布する。北海道～九州のブナ帯以上の石灰岩地などに分布する。県内では岩泉町、遠野市、釜石市、住田町、大船渡市などの石灰岩地などに記録がある。
- ❖ 生育状況 主に石灰岩などの岩上に生育する。
- ❖ 脅威 石灰岩の採掘、道路工事など。
- ❖ 文献 16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)、23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)、24. 湯澤陽一・横山正弘 (2005)、30. Iwatsuki, Hattori (1962)

(鈴木 まほろ)

ヤマトクラマゴケモドキ

クラマゴケモドキ目 クラマゴケモドキ科

Porella japonica (Sande Lac.) Mitt.

環境省 なし

- ❖ 形態 灰緑色で光沢があり、茎は長さ 4～6 cm、不規則に分枝する。葉の背片は卵状舌形、長さ 1～1.5mm、円頭で上半部に数本の歯がある。腹片は長舌形で縁には鋸歯がある。
- ❖ 分布の概要 東アジア、東南アジア、ヒマラヤに分布する。国内では本州～九州、小笠原に分布する。県内では早池峰山北面、岩泉町、釜石市、住田町、大船渡市、一関市に記録があり、多くは石灰岩地である。
- ❖ 生育状況 岩上や樹幹上に生育する。
- ❖ 脅威 石灰岩の採掘、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 関東地方以南に分布するとされるが、東北地方にも複数の生育地が知られている。
- ❖ 文献 13. Hattori (1957)、16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)、23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)、24. 湯澤陽一・横山正弘 (2005)

(鈴木 まほろ)

クラマゴケモドキ

クラマゴケモドキ目 クラマゴケモドキ科

Porella perrottetiana (Mont.) Trevis.

環境省 なし

- ❖ 形態 植物体は褐色を帯び、長さ5～10cmと大きく、茎は規則的に羽状に分枝し、背片は鋭く尖り、先端部に数個の長毛があり、腹片と腹葉の全周に長毛がある。
- ❖ 分布の概要 東アジアからヒマラヤ、インドに分布する。国内では本州～沖縄に分布する。特に石灰岩地帯に多い。一関市に標本記録がある。
- ❖ 生育状況 樹幹や湿った岩の上に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、森林伐採など。
- ❖ 特記事項 岩手県が北限の可能性がある。
- ❖ 文献 16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)、22. 湯澤陽一 (2017)、23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)
(鈴木 まほろ)

フルノコゴケ

クラマゴケモドキ目 クサリゴケ科

Acrolejeunea sandvicensis (Gottsche) Steph.

環境省 なし

- ❖ 形態 茎の長さは1～2cm、不規則に分枝する。葉背片は卵形で密に重なり、全縁で円頭、長さ1～1.3mm。湿ると茎に対して直角に開出する。
- ❖ 分布の概要 東アジア、東南アジア、太平洋諸島に分布する。国内では本州～沖縄、小笠原に分布する。県内では岩泉町、山田町、平泉町、一関市の溪流沿いに記録がある。
- ❖ 生育状況 低地の樹幹や岩上に生育する。
- ❖ 脅威 河川改修、観光開発など。
- ❖ 文献 16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)、17. 湯澤陽一・横山正弘・山田耕作 (2011)、23. 湯澤陽一・横山正弘 (2004)、24. 湯澤陽一・横山正弘 (2005)、27. 水谷正美 (1974)、31. 湯澤陽一・横山正弘 (2007)
(鈴木 まほろ)

カサゴケ

ホンマゴケ目 ハリガネゴケ科

Rhodobryum roseum (Hedw.) Limpr.

環境省 なし

- ❖ 形態 オオカサゴケよりも小形で、傘の部分の葉はカサゴケモドキよりも少なく16～21枚、長さは約10mm。葉先は鋭頭、中肋はふつう葉先に達しない。
- ❖ 分布の概要 ヨーロッパ、北米西部に分布する。国内では北海道、本州、四国に分布し、日本海側の多雪地帯に多い。岩手県にも標本記録があるが、精査の必要がある。
- ❖ 生育状況 森林林床の腐植土上に生える。
- ❖ 脅威 森林伐採、林床の乾燥化など。
- ❖ 特記事項 岩手山で採集されカサゴケと同定された標本があるが、近似種があるため、精査の必要がある。
- ❖ 文献 7. 鈴木まほろ・沼宮内耕作・岩淵弘 (2006)
(鈴木 まほろ)

情報不足

オオカサゴケ

ホンマゴケ目 ハリガネゴケ科

Rhohdobryum giganteum (Schwägr.) Paris

環境省 なし

- ❖ 形態 地下に長い匍匐茎がある。直立茎は長さ 6～8 cm、頂部に大型で濃緑色の葉が集まり、湿ると横に広がって傘を広げたようになる。長さ 1.5～2 cm、狭く鋭頭、上半部の縁に対になった歯が並ぶ。茎の下部には鱗片状の小型の葉がつく。
- ❖ 分布の概要 中国、朝鮮半島、熱帯アジア、ハワイ、マダガスカルに分布する。国内では本州～沖縄に分布する。岩手県では一関市から採集された標本がある。
- ❖ 生育状況 山地帯の湿地林下の土上など。
- ❖ 脅威 森林伐採、管理放棄など。

(鈴木 まほろ)

情報不足

ササオカゴケ

ハイゴケ目 ヤナギゴケ科

Sasaokaea aomoriensis (Paris) Kanda

環境省 絶滅危惧Ⅰ類

- ❖ 形態 茎は長さ 10cm 程度で、羽状に分枝し、分岐した糸状の毛葉が一面につく。ややまばらに扁平に葉がつき、長さ 3～4 mm、卵状披針形でへこみ、鋭頭で鎌状に曲がる。中肋は葉先に達しない。
- ❖ 分布の概要 韓国、台湾に分布する。国内では本州～九州に分布する。県内にも分布する可能性がある。
- ❖ 生育状況 低地の湿地や水田、ため池の縁の土上、ときに水中に生える。
- ❖ 脅威 管理放棄、圃場整備、湿地開発など。
- ❖ 特記事項 岩手県を除く東北 5 県のレッドリストにおいて、いずれもⅠ類相当とされている。

(鈴木 まほろ)

情報不足

ホンダゴケ

ハイゴケ目 キャラハゴケ科

Hondaella caperata (Mitt.) B.C.Tan et Z.Iwats.

環境省 なし

- ❖ 形態 茎は這い、長さ約 2 cm、斜上する枝を不規則に出す。葉は密につき、多少鎌形に曲がり、茎葉は長さ 1.5～2 mm、披針形。
- ❖ 分布の概要 東アジアに分布する。国内では本州～沖縄に分布する。岩手県では岩泉町から採集記録があるが、現状不明。
- ❖ 生育状況 樹幹や腐った木の上、岩上にも生える。
- ❖ 脅威 森林伐採、林道工事など。
- ❖ 文献 8. 樋口利雄 (1989)

(鈴木 まほろ)

チチブイチョウゴケ

ツボミゴケ目 チチブイチョウゴケ科

Acrobolbus ciliatus (Mitt.) Schiffn.

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

- ❖ 形 態 岩上に匍匐し、茎は長さ1～1.5cm、幅0.5～2mm。葉は先端から約半分まで2裂し、葉の縁に仮根状の長毛がある。
- ❖ 分布の概要 東アジア、ヒマラヤ、ニューギニア、北米東部などに分布する。国内では本州（関東地方以西）～九州に分布するとされる。岩手県にも記録があるが、現在は確認されていない。
- ❖ 生育状況 ブナ帯の古生層地域の湿った岩上に生育する。
- ❖ 脅威 森林伐採、乾燥化など。
- ❖ 文献 13. Hattori (1957)、16. 山田耕作・湯澤陽一 (2001)

(鈴木 まほろ)